



0 1 2 3 4 5
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
JAPAN
T&M8

於
文
八

卷之五

東方

繪本通俗三國志初編卷之五

目錄

董卓燒長樂宮

袁紹孫堅奪玉玺

趙雲大戰磐河

繪本通俗三國志初編卷之五

董卓燒長樂宮

呂布打負て逃へるよ。本陣へ戻り、袁紹大よもやさび櫟文を
 以て孫堅よ命ト。兵を引く攻うちし孫堅命を受く。自ら
 程普、岳蓋、木を伴ひ袁術が陣よ行く。對面し誓言をうて
 やる。と董卓ともども誓す。今兵を與へて。自ら矢石と冒
 し。命をとまば戦をとげひあへ。上へ國家のための忠を盡す。わ
 が百姓の苦しみをとくろんが爲る。糧るよ足ト。人の説を信ど。兵
 粧を送ら。某よ敗軍させやうじあらゆ。ぞと責け。が袁術が
 とふがた言ふ。あは怖きこと。さきよ讒言。たるものを引牛。其
 首を斬と謝け。孫堅よりよふ足て。酒宴をうけて居たるわ。

手下の兵士の走りきたり。虎牢関より騎馬の客二人きたり。孫將軍
よあらんこやひと告げき。孫堅とあるも。袁術別き。我陣面
り。何人ぞと問ふ。となむ董卓が大將よ。李催とつまうとある。
孫堅呼よせて問ひ曰く。你なまことあらまえ。李催曰く。丞相董
卓常々將軍の徳を望む。今某を以て使ひ。あらか好を結む
む。董卓幸よ一人の女あり。將軍の子を婿とし。一門の子弟盈
く郡守刺史よ封じて。孫堅大よ怒て曰く。董卓天よ逆ひ道よ
背き。君を弑して悪をうる。我つひよ其九族を滅ぼす。首をきり都
門よ鳥て。天ト人々よ俯せんと故と若あらざれ。我死とも目を
塞う。安んじ逆徒と好を結ぶんや。いはゆ。你が頑を斬げよ。も。暫
らく預けか。早く回りて降りよ。生よ若ふとろからバ微塵よ。もんとそ。

追立生つけ。老子催頭を抱へ。開く竈がどくよまよけり。董卓此
由をゆく。怒り。李儒を呼び。計あるを議む。李儒曰。呂布
をもよ破きて。兵の多く戦ひ心ち。もうだ丘をね。洛陽よ
うり。天子を長安よ。うり。なり。肘を待て。戦べ。近づく都内
内よ。小兒の謡ふ歌の詞をきけ。西頭一箇漢東頭一箇漢鹿走
入長安。方可無斯難とい。り。あの歌のち。丞相とも長安富
饒へ。地よ居たり。西頭一箇漢。と。高祖。西の方。長安よ。都ト。ひ。十
二代傳へ。外り。東頭一箇漢。と。光武。東の方。洛陽よ。都ト。ひ。今
よ。い。る。ま。ざ。又。十二代。う。天。の。運。數。う。つ。じ。丞相も。一。長安。よ
り。り。ふ。り。あ。や。う。た。り。け。す。董卓。よ。よ。う。ら。じ。大將趙岑をと
めて。堅く要害を守ら。急ぎ都より朝廷の百官をあわせ。

ヤケ。漢東の方洛陽は都もより二百余年。氣運とよあどろく。
さう。ヨリ天文を考ぐる。盛氣いま長安。す。早く都をうけ
て。太平の基をよどむ。你ホよろく其用意あべと云ひ。司
徒楊彪も、生て曰く。いま関中零落して人民やまとんうきよ。又
やうすと都をうつ。代て宗廟をとどく。あまそとて長安。
やきり。恐らく百姓鳴うどく沸て。天下の乱やむと見ゆ。大
尉黄琬も曰く。今楊彪がヤモとどく遷都する。豈
らど。そろやハ王莽が篡逆の附。長安一宇ものふらば焚つて。
今。左礪の地と云ひ。ちとて人民流落して二百余年もしく
きをひろへ。此繁華うる都をとどく。遙くとあり五ひん。やく
あらばうじて存びき。董卓大よ怒て曰く。你ホいきよを

國家の本をさはぐる。關東いま乱まぢて逆徒しきり。攻
へん。長安の嶠函の固あて。龍右よちく。天下第一の要害
す。今あれたりとも。彼地よめひと。官殿官府をつらん。
よんりこれをあざげ。你ホミヅリよ舌を動かすとあされ
司徒荀爽もと三生て曰く。丞相も一都をうけ。我天下の計もとを
百姓ふぶく滅亡。董卓怒てやけり。我天下の計もとを
是邦の本。若都をうけ。人民よぞく恨をふく。天
下。ト。乱はながし。董卓いよくいう。憎き己ホ。よと我らよ
ともくぞと。即付。楊彪。黄琬。荀爽。三人の官職をはだ自ら
車。乗て出け。ならまち外より二人きなり。地よひざまばく。

董卓古きを以て尚書周毖城門校尉伍瓊も。なよる
あると問ば。周毖が曰く。今都をうつすかとぞ。諫をやどんと
めよ素りなり。董卓まちくいう。你二人へ敵と内通ひふあう
けらる。若生てちうぶ。後日乃害なむべと。武士より命どと
首を斬せけ。木本李儒きたり。又曰く。いま金銀の用意をくわく
觸させけ。木本李儒きたり。又曰く。木本李儒
いはれ。洛中乃富貴する家を。とぐく没収と。一人もつまじだきり
あら。其財宝とあはめぬ。不足あらず。ひまド。董卓同心と。精
兵五千人をえらび。洛中より走りちうと。さもある人の家をくわく。
まば四方を圍んで。老少男女一人も餘さず。きら家財を益く
そりはあむし。目もあてらまぬ。ひりと。次ノ日李傕郭汜

二人。洛陽の民をとぐくう。立まづ長安へかもじう。ひまう五千人
を一隊。こゝと後より。まほらびらう。武士ども。手よ刀を提げ。ふそき者
の路。と切きて。追立くいそき。ひまう。溝
絆。よなをまうがち。幾十人。とひまう。ひまう。白晝よ。亥寅。糧食と
猛。の武士ども。人の妻子を是非。うく。むいそく。白晝よ。亥寅。糧食と
うをひまう。ひまう。号泣。あを天地を動かす。董卓と。ひまう。打立人と
て。先禁門。よ火をうけさせ。人民の家を。ひまう。主上皇族。と車。
どう乗。をり。又呂布。よ命令と。先帝代。の宗廟。后妃大臣の塚。ま
も。一。を残さざ。地壇。あをう。その重宝を。ね。千辆の車。よほんと。とぐく長
安。よもに。じめ。其後虎牢関へ人を。そく。関を。と。回り。きたまこと
げら。下知。一。けい。ば。將趙岑。諸所の兵を。引拂ひ。関を。と。ぞ。走りる。



困ての諸侯是ヒリヒ。とひや敵あヒ落たヒ。前立もどうわ。と
見きさとよと。記水関へ孫堅一番。馳虎牢関へ玄德一番。
よをせ上り困ての軍勢。おはひと乱入孫堅ハ馬。と。洛中を
望む。火船天をあが。黒烟り地を包ミ。三百余里が間。一も繁
華。もう。洛陽城片。時があひと灰燼。もうけ。そごふ。漢を
ふか。と。あさまく思ひ。兵を下知。と。火を滅させ。困ての諸侯。三つ
焼跡。陣を取。居たりける曹操。自ら袁紹。よりて。今
董卓西園をと。落下降り早く。勢又乗じ。追うけ。全こよなま
と。と。緩じ。と。居。す。袁紹。白。味方。諸侯の勢。と。ぐくほる
き。バ。追。くる。益。あ。ほ。ま。三日。人馬を休め。其後。よ。沙汰。ば。
曹操。曰。董卓。洛陽を。焼。はく。天子。奪。て。長安。よ。走。四海。ふ
と。ひ。動。い。と。假。む。お。を。く。は。是。天。董卓。を。滅。し。か。う。一。戰。ヒ。天。ト。太
平。る。らん。早。く。追。討。よ。う。り。り。諸。困。の。太。守。三。之。疑。を。あ。ぐ。ん。追。う。け。ん
こ。い。か。あ。う。點。然。と。と。居。な。り。け。み。が。曹。操。あ。よ。立。腹。し。豎。子。と。も。よ
謀。う。足。だ。二。甲。斐。う。き。く。と。此。大。の。を。計。り。け。ま。と。越。度。う。き。ば
く。人。へ。鬼。も。角。も。あ。き。と。と。ま。陣。よ。馳。く。う。夏。侯。渾。曹。仁。曹。洪。ホ。と。一
万。余。騎。を。率。し。董。卓。を。討。止。め。ん。こ。と。跡。を。追。と。ぞ。馳。く。り。け。る。去。程
よ。董。卓。洛。陽。を。落。て。帝。ヲ。御。車。王。を。あ。め。長。安。を。さ。と。急。ぐ。而。ノ。榮
陽。の。太。守。徐。榮。と。ひ。の。も。の。兵。を。引。く。坐。む。う。ひ。再。拝。し。と。見。け。き。バ。董
卓。よ。う。あ。ん。で。車。を。賞。を。李。儒。が。白。く。某。を。う。か。追。手。の。勢。跡。を。慕。て
来。る。べ。先。徐。榮。が。新。手。を。榮。陽。城。の。傍。う。る。山。の。後。よ。伏。ふ。き。若。追
う。敵。あ。う。が。其。の。き。と。ぐ。く。侍。跡。を。塞。う。を。前。後。よ。討。や。ふ。き。

董卓たとて徐榮又計りとを授け。山々間より藏し。呂布も精
兵を付こもうと引さがりて後陣も打せ。御車を守護し。徐
と落ちたけり。案のども。曹操が一万余騎。飛走とくよ追うけ。呂
布あきをりとあは笑ひ。さればふと李儒が計をす。沮きり
と兵を留めて陣勢を張け。曹操自ら馬を出しだす。
とやうる。逆賊董卓天子を劫う。何へ行く。早く此とあらよこ
れをじんべ一人も遺さば討止る。呂布あざとらひ主よそむく
匹夫。ちくよと首を失ふを罵り。曹操が勢の中ま。
復侯惇鎗をひひりと突とく。呂布と火をちらして戦ふ。あ
よ董卓が大將李傕一軍を引いて横合どうとも曹操も主と
よと。夏侯淵も。呂布も打まけ。さんぐに走り
け。呂布兵を駆て短兵急よ追うけ。首を斬るとねをあらび曹操
が万余騎。心をよとに戦ふといふも。敵の猛勢もうちやがられ
て。崇陽をさとれ。残る勢四千人よとだざり。されども
敵長追をもせざりし。あきなる山の傍よ下居。人馬の息が休
め。兵糧をほりんとくるとまくよ夜の二更から月の光白月のどまほ
て。山の四面よ喊ひをあげ。徐榮が伏勢とぐくをりけれ。曹操
魂を失ふ。馬よ衆てもりける。徐榮急よ追うけ。よう拽て兵を射
る。其矢曹操が肩よ中り。矢をぬく。日間もす。一命を助らん

り。董卓が大將郭汜兵を引いて討て出かけ。曹操又曹仁も命じ
防ぐ。西方の軍勢たゞひよ。余を惜む矢。叫びのあは天よひ。だ
へと。攻戦うち。夏侯惇はるよ。呂布も打まけ。さんぐに走り
け。呂布兵を駆て短兵急よ追うけ。首を斬るとねをあらび曹操
が万余騎。心をよとに戦ふといふも。敵の猛勢もうちやがられ
て。崇陽をさとれ。残る勢四千人よとだざり。されども
敵長追をもせざりし。あきなる山の傍よ下居。人馬の息が休
め。兵糧をほりんとくるとまくよ夜の二更から月の光白月のどまほ
て。山の四面よ喊ひをあげ。徐榮が伏勢とぐくをりけれ。曹操
魂を失ふ。馬よ衆てもりける。徐榮急よ追うけ。よう拽て兵を射
る。其矢曹操が肩よ中り。矢をぬく。日間もす。一命を助らん

と馬をうちて、叢林中を走る。徐榮が歩立の兵艸へうげよきもうち。馬乃大腹を二鎗穿る。真さうきよ駒かどせ。二人ひしと馳す。と首をそらんとあらゆ曹操が弟の曹洪。月影よひを付て。とがらどく馳きたり。一人の敵をきりらじて馬ようどひり。曹操をなぞけふまへけらぐ。肩を射らしる矢。瘡車くと。馬ようふちたら。附胸をふまきへづば。とどよ人心地もあくなつゝけ。曹操あふどうひてそらくとも間。曹操をみて。我とどよ深手を負ひ。まを。あらわよて。そばに。你の早くふちあびて生残きと云け。曹操が曰く。きよとて甲斐るたるを作せり。早く某が馬よ乗せ。曹操が曰く。まをどうちうばたねらん。你若馬よもろき。いくと逃ると。をはん人找まをうちと。早よ落のけ。曹操やるよ夜ひと。あけと追うる敵ひ。ま

しかわよまうひうれ御心よ。あよと天下の大事をあむへなれ。と曹操が曰く。いんせん我とまよ寄迷と。うぶくらあくよ。曹操が曰く。いま天トよ曹操。日も主公をもあづくらひ。馬ノ上よりのせ。身の甲盛をぬぎと。身と。馬ノ上よりのせ。敵のあふ。からくよひと。追手の勢と。まら更に比ひよひと。敵の喊のあふ。からくよひと。追手の勢と。まらあが。前よ人河を越して白浪天よもよひ。け。曹操よ嘆て曰く。よが命らよひたまう。活よひあなま。曹操が曰く。早く馬よあり。鎧をぬきよひと。自ら肩よ引ひ。大河をやらくこよひ。岸の岩をよひ。よひ。前よ人河を越して。白浪天よもよひ。け。曹操よ嘆て曰く。よが命らよひたまう。活よひあなま。曹操が曰く。早く馬よあり。鎧をぬきよひと。自ら肩よ引ひ。大河をやらくこよひ。岸の岩をよひ。よひ。曹操必死をのぞれて走りけど。夜もやのぐとあめくわ。二十里をよひ。曹操必死をのぞれて走りけど。夜もやのぐとあめくわ。二十里を



曹操このとあるもいふざろひさのきを夕ゆふまび敵さへせうどノうこ將さへせうど徐榮じゆう河上かわのうすりよし
て此このとあるもいあよ相あいまらけあらう。其勢四方よつがたすうとう圓おんんで曹操さへせうどを生取いはせらんと
まようよ。夏侯惇わこう夏侯淵わこう十騎じきわほりと引ひてもせきなり。徐榮じゆう奮せん力りきき
りと入いり徐榮じゆう大だいよ怒いのり馬ばをうけと突つくと走はしりけと。夏侯惇わこう
馬ばをまだまだ二三合戰ごさんかせんうひけと。徐榮じゆうあるまびと走はしりけと。夏侯惇わこう
ああ門もんはひととひこらひこら曹操さへせうどを安やすんど馬ばをもやめて池いけをもふ。曹
仁李典りんりてん樂進らくしんホふひくよ尋さがねきたり。又五百余騎よるすりけとを
河内郡かわちぐんよ陣ぢを取とて諸方よがたの勢せいをあはめり。

袁紹孫堅奪玉玺

困くるく乃の諸侯しょこう洛陽らくよう入いりて。三さん燒やけあとの陣ぢを取とて孫堅さんげん兵へいを下げ知しと
火ひを滅けさせ。建章殿けんしょうでんの旧跡きゅうせきと假屋かりやを分わけちて内裏うちり
り。孫堅さんげんその夜よ一天いつ雲くもと星月せいげつと光露ひやくひやくとすうと自じら劍けん
を帶たんと建章殿けんしょうでんの階はしの上うに坐すわ。天文てんもんを作つくりて紫微垣しうゐげんの中なか白
氣漫まんてななく。大だいよ嘆なげと曰いく。帝星明めいらうるうと。賊臣國こくを乱まり
万民塗炭たくたんの苦くとをうけと洛陽らくようの宮殿うぐいでんうづどくと如墨ごく
りとくとくと涙なみだをろづろづけきと傍そばからなる軍士ぐんし告こと曰いく。われ
よりとへる殿でんの南みなみ。五色ごしきの光ひり井いの中なかからうひ。孫堅さんげんの
と火ひ炬こともさせ。井いの中なかをさづさせけきと。一人ひとの女めのをひきと
げく。とどよ死しして日ひを経つくと又またへりよぶ。その屍しかばねをましむ

たまび。裝束まひとよ尋常乃人とへり。錦乃古裏を頂
うけて。兩乃手と抱へたり。一玉囊をとすと。すくと。紫紺乃
糸を以て龍を繡あせ。とくつら。閑こゝロ。内と朱記画
あり。鎖を扣開く。乃玉。一乃玉璧あり。方圓四すよと。上と
五龍を鏽。一方乃角缺たらと。黄金と鑲る。受命于天
既壽永昌。こ篆字と書なり。一玉孫堅。いきは。も。さすがよ
乃はねの物。あらと。程普を召して。きを問ふ。程普曰く
あきをみづち傳國乃玉璧あり。おの玉ハ昔一。下和ヒ一人。荆
山乃下。て鳳凰乃石の上。棲を見て。其石を楚国乃文王。よ
献する。文王是をひと。璞玉。もうと。宝としむ。その後秦ノ始皇
二十六年。良工をあらんと琢。方圓四す乃玉。ころ。李斯

命ハ。と受命于天既壽永昌。といふ八字を書せ。名だけて傳國の
玉璧。と。二十八年。始皇帝。巡狩して。洞庭湖を渡り。あらと。
俄々。風起り。御舟を。どよく。ほぐらんと。せり。始皇帝
おの玉璧を。水中へ。落へ。忽ち。風休浪。と。ひらき。三十六
年。又。巡狩して。華陰。とい。う。あらと。あやしげ。ある。玉璧。を持て。坐き
たり。帝の從者。よ。と。あき。を。祖龍。よ。へ。せ。と。ひ。と。行。と。し。だ
せぬ。あき。す。又。秦。よ。復。り。傳。て。子。嬰。よ。い。ま。秦。の。世。と。ど。よ。滅。ざ
と。た。子。嬰。ら。を。漢。の。高。祖。よ。獻。つ。後。よ。王。莽。漢。の。天。ト。奪
ん。と。せ。ー。と。た。孝。元。皇。太。后。あ。き。を。人。よ。あ。げ。つ。は。あ。い。一。方。の。モ
ミ。缺。さ。り。一。金。を。以。て。鏽。ら。ひ。光。武。あ。き。を。宜。陽。よ。し。ふ。ひ。ヒ。位
を。當。今。よ。傳。へ。タ。り。さ。れ。よ。十。常。侍。が。天。子。を。劫。や。う。と。北。邙。山。走。

是玉玺俄失。失不一朝。今天下誰君。授ける。於是九
五乃位。是國子孫也。不復祥瑞。此是
失。早。本國。遠大。計。是。失。而。是。若
孫堅。是。明日。虛病。本國。是。而。是。若
外。是。而。是。首。是。而。是。其。內。
袁紹。同國。是。而。是。是。而。是。傳國。是。而。
て。明日。日本。是。而。是。是。而。是。傳國。是。而。
是。車。恩賞。是。而。是。是。而。是。知。是。而。
是。來。袁紹。是。而。是。是。而。是。軍。中。務。是。
之。是。而。長沙。是。而。身。是。養。是。而。是。云。
是。袁紹。是。而。是。是。而。是。傳國。是。

是。孫堅。色。失。是。日。是。是。是。是。是。是。
曰。今。國。諸。侯。義。兵。是。董。卓。是。誅。是。是。是。
下。扶。社。稷。安。是。是。是。為。是。玉。玺。即。漢。朝。的。是。
你。是。是。先。是。告。天。下。是。是。是。後。朝。廷。是。
不。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。
謀。反。是。是。是。是。是。是。是。是。是。
是。早。是。是。是。是。是。是。是。是。
責。你。謀。反。是。是。是。是。是。是。是。是。
不。是。是。是。是。是。是。是。是。
是。是。是。是。是。是。是。是。



曰く孫堅ろくひどくをとくに定て誅ひまじるべし。人へ虚言え
らん袁紹たゞ怒りて麾を告へらせこゝ軍士をすび坐し。昨夜井
の中より取生をとこと此人へあくびを云けし。孫堅立々怒りて曰
さしも己へらう大事の詐をよし我を害せんと巧みけらきこと。
劍をぬいて斬んとぞ袁紹も劍を拔く。你ふのものとを斬らうべ。
ヨキを欺むたはんやといふと。孫堅立向孫堅も劍を提さげ。ふ
ぐりこくりけき。二人乃氣色をそそて袁紹が後より顏良文観を
んごいて荒者ごも刀を抜て立す。孫堅が後より程普黃蓋
韓當ホ手ごとよ力を抜てあり間の鬱財氣をも。一軍せんと臂
をもる。とくや大事出来ぬとくする。満坐乃諸侯一同は匡止
め。あまといふる同士軍ごや日がろの血をまく。朋興をもる。

るべからず。為ひやふらうどや此より外より支へる。天下の人への嘲を取る
あらばあるふと喜ぶがでると。両方へ引分けせば孫堅の馬よとば棄
本国をじて馳とへ袁紹たゞ怒り。天トの宝を盗んで本国より
をもててゐ。其謀及疑がいふとて荆乃へ早馬をうちて太守
劉表よ此すを告へ。途を塞て孫堅を討へ。其後
曹操手勢一万余騎よと董卓を追うけ。榮陽にて移り。討
今ふのやへ北きたまうと告げ。袁紹酒宴を設けて諸侯を
よび呼ぶ。あはれ長安よ向ひ計とを議せんとする。曹操もと
出て曰く。我を下す大義を起して。天トの為よ害をひそく。國への諸
侯も。まことに義よりてまつりた。もうまく我討とを用ひみひど
事こゝ相違と。日がろりもよ背き。今又疑がひをあてて兵をま

をあびてよえト乃人よ笑ひ罵らる。おきはるも將軍うたひよ是
を蓋と云けまし。袁紹が答へ言をゆく。毎與げよと退散を。
曹操が陣より袁紹が答へる私ノムを懷ひて始終よるべ
しとも思ざりし。自ら手下の勢を引く。揚州へ引退く。
公孫瓚あまくとて劉玄徳を呼んでやる。袁紹を貰ふる
無能よしと用ひよ足。後うちも變あらん。もとし。本国へ
引うり。時ひつと相まはせし。御辺も平原より來り。そ
諸共は陣屋を收て去よけり。兗州の刺史劉岱。東郡の太守喬
瑁。兵糧米をりりけり。喬瑁さらよ從ふ。さてハキ。劉岱を
怒り。夜中よ攻へて喬瑁を斬あらひ。ゆうよ國へ。諸侯へ
そろまこと散乱。けも袁紹らくとひあるかまド。暫らく洛陽を

引く。又計とも致ひ。關東へ退をれ。豈ぶ國々の諸侯思ひ
よど回り。荆峴の太守劉表へ字の景升と。身の長八尺。乃ち漢室
の宗親なり。とて延平の荆越襄陽の蔡瑁といふを。二人國の
政などを摂ふりける。ある日袁紹が方より早馬きたり。孫堅玉玺
を盜んで江東へ逃下る。路をふとひ討ふめと告ぐ。合び
一方余臂の勢をそらる。路によ関を居て。今やきなと待つけ
て。孫堅へうるるとももと。とて。荆州の路よ出で。荆越兵を
引て馬を生じ。孫堅ふごうひと問て曰く。荆越いづるを。兵を引て
路をさへぎる。荆越わざ女と曰く。你へもと漢の旧臣がふとて傳
国の玉玺を奪ひ謀反せんとへ巧む。早も玉玺をくへせ。さらよく
路をむらう。孫堅も怒り。憎た奴原が狼藉する。跡にして通せ

と下知をもひ。黃蓋鎗を燃て突く。蔡瑁刀を奪て馬を
牛の火をうちして戦う。ひるよ。黃蓋鉄の鞭を振あげ。力をいざ
と打りこぶ。うけたびと。蔡瑁が心當を微塵すらくぐむ。やけ
に。蔡瑁ひきよ。怕れ。馬をじて逃も。孫堅追討。もん
じ。日をとど。西山よ傾ふたりと山の後より一手の勢うけ
出る。さらしをよく。真先うえ。荊州の太守劉表。あつ。孫堅馬上
まう禮を施すと。足下いもゆ。よ哀紹が詐りをすと。鄭
國の交りをよきゆ。劉表答て曰く。你傳國の宝を盜む
に。反逆の企てをう。よきよんぞ。討ざらん。孫堅誓うひをゆと
曰く。よき玉玺を盜まざる。天地神明。照覧わづ。そく詐りら
ばう。よく運命はを。手よううと。が。劉表あざ笑て曰

你小児の戯むきをす。おどとく。さゆうの誓言をあへきびと
て容易くあをと通すべ。你軍中をあをらう。我よ搜させ
え。ふよく通とべ。孫堅大よ立腹。と。你いふされ。我をうるん
も。うごと。馬を飛べと切そつ。劉表急よもりぞをひき。孫
堅兵を引て走らんと。四方の伏勢一度よあらう。蔡瑁削
越兵を下知とあほに。攻けよ。孫堅が勢どぐく。討き程
曾。黄蓋。おも命をもと。囲を生。ばくよ。六七騎。あらともう
く江東へ逃う。す。軍によ。劉表と孫堅と。だぎひよ。誓を結
んで。軍の絶やう。ひまほ

趙雲大戰盤河

董卓をとど。長安へ没落。と。困く。諸侯もう。己が領困。よう。里

けれど袁紹も河内郡まで引寄せた兵糧よりをうひと冀州の太守韓馥より資を求める所。手下の太将逢紀といふものと出でる。丈夫乃是士心のため大なる志を立てる。天下を縱横を走る。あるべく、区々とて人よ託して資を求じけんや。夫冀・汝富饒の地より。金銀兵糧きひや多く。將軍早くより圍を奪て身を立るの本と。袁紹曰く。いろいろ計略と用ひ。まきを取ん。逢紀曰く。密う。北平の太守公孫瓚が方へ書簡を以て。冀州をもと攻め。二ほよ分ち取んと云つて。彼もよと。もうまんで兵を起をば。將軍又密う。韓馥より内通しゆる。韓馥もとす。臆病不智のものあり。うそい。將軍を頼むべし。そのことを計略と用ひ。奪ひんと。掌の内もあ。袁紹大よろう。即ち北平へ書簡を送り

け。公孫瓚ひらを兄弟よ共に兵を起しと冀州と攻取んとのあきを。公孫瓚ひらを兄弟よ共に兵を起しと冀州と攻取んとのあきを。即ち冀州へ使を遣し。今北平の公孫瓚其の困よ攻入んと。御用ふあ。と告ぐり。と。韓馥大よふぞろき。荀諶郭圖。ホを刀口と。いふせんと議。荀諶。公孫瓚幕代の兵を起し。長く駆て攻きたる。其鋒あざりが。殊よ劉玄德。關羽。張飛。と。世よふぞろき三人の兵もある。若合戦よびる。ふ。困の破きんと目前よあ。今袁紹へ智勇人々超て。手下の名將。其ねを。西代三公よ昇り。因恩徳を四海よ。万民の望むふの。よ。早く袁紹を御頼むべし。ともに困を守り。公孫瓚手。ざひとともひま。韓馥も。と。同ドケ。長史耿武といふもの



よ諫と曰く。袁紹今勢力ひ窮り力益て。ひとよよと鼻息を作き。頬
も鬚べ小児の母の懷よ抱き。若乳を飲しめざき。立ふ。餓死。
る。ふど。何んぞ困を授て頼む。理わらん。やは是まをと。虎を引く。
群が羊の中へ入る。もぶと。うそと。此のみを休々。韓馥が曰く。
主本の袁氏の家より出るをみえ。況や才能袁紹よ。ひづ。
古の人ども才あるものよ。困を譲る。你も諫むる。とあるとき。別
駕。閻紀といふものを使とて。袁紹をぞひしけ。冀州の旧臣。是主
見や。國を滅亡とぞよ至きり。あうだ身を全く。ふせんと。官をと
て。遁走。三十人よあみきり。されども耿武。忠義。ふるふる。
か。閻純といふものを語らひ。小どと袁紹を殺さんと思ひ。半
途よ生く木陰よろく。今やまると待居す。数日とがと袁紹兵
を引て。素りけ。二人刀を提さびと斬て。うりけ。袁紹が大将顏良
ふる。うりと。蒐ふさぎ。はる。耿武を斬る。関純も文醜も討きよ
り。袁紹も。冀州も。太守韓馥を舊武將軍も封す。民
を安んじ。賢を招た。田豐沮授許攸逢紀もを重く用す。國の政
事と。治め。せけ。權柄も。袁紹に取と。韓馥が在ども
あらがと。よゆかと。今ちそ耿武が謀を思ひも。後悔されども
うど。の内日夜苦へんじ。ほの。妻子をもうちと。只一人陳留
と行す。太守張邈を頼ん。そ居。うける。北平の公孫瓚。此
とどよ努力を。揃へ。打出る。冀州も。袁紹が手よへ。とゆ。とゆ。
弟の公孫越を遣す。約束のど。冀州を二つ。分んと云。袁紹
對面して。下る。困を分ハ重きと。す。人傳よ。爭う。致さん。公孫

瓚自ら來らば。乞うるべく國を分たん。あまよまと公孫越にまく
えらぶよ。半途より一手の軍馬傍より打て出。まことに董卓より
もあり。以日比ノ仇と云ひて呼り。四方より兩り降どく。矢を放
られ。公孫瓚よ見へ右ノ趣を語りけり。公孫瓚怒てやけ。袁紹さ
きに書簡を以て。どもに冀州を分ら。耳んと云送り。却て我を欺
ひ。公孫瓚よ見へ右ノ趣を語りけり。公孫瓚怒てやけ。袁紹さ
きに書簡を以て。どもに冀州を分ら。耳んと云送り。却て我を欺
ひ。ひそ國を奪い。今又董卓が勢を擧げ。と。弟を射殺せり。吾
おんぞ坐あら辱しを受る。忍んと。直ちに冀州ほこて推
よせたり。袁紹よ見と。さりび打て出。蹴ちらさんと。三手よ配
て。盤河乃橋より東。よど陣をとりける。公孫瓚ハ橋より西。馬を扣
へて。自ら大音あげて。義よ背く賊。いざくよ居ぞと呼りけり。

袁紹馬を橋の上よけと。下りけり。韓馥不才よど冀州を保て
こあく。我を招て。困を譲き。你いふ。兵を起し来る。公孫
瓚怒て曰く。昔洛陽を攻め。汝を忠義の人と見て。共議
して盟主とす。實は狠心拘幸の曲をのぞ。何の面目ある。天地の
あぶく。間よ立ん。袁紹左右を顧て。誰う。奴を生取。舌をぬけと
云ひ。文醜と身の長八尺をうり。男の面ハ鱗のと色あ
まを黒き。馬をとぞ。とうけ出。さり。公孫瓚つらよう。馬をうり。
橋の上よこ只二人。一派斗り。殺ける。公孫瓚つらよう。馬をうり。
走りけり。文醜の後を追うけ。直ちに中軍へうけ。左よ突右よ
突。人馬を石をやく。北平の軍勢あへて當つて。あく。志
がくよめく。公孫瓚が大將四人。そりまた討人。四方よ

りもももるを文醜ぶんしゆもあーも農のうど黒烟くろけいを立て戦たたかふたり。ありと一人の大将鎧だいじょうけいもあなりと馬より落おちべき残のこ三騎さんぎの大將だいじょう叶かなへども思おもはん馬ばをうち川かわへ逃のがれて文醜勝ぶんしゆしようよ乗のて公孫瓈こうそんさいを討うひと馳のまりて公孫瓈こうそんさい膽きもを冷ひやして山の間まを走はして文醜急きゅう追おいけ。とこやうよ降おらへ命めいを扶さけんと呼よる声こゑ耳根みみとひひと手てをバヨン矢やをうるぐりとて逃のがれふ乗の馬ば岩いわに突つき膝ひざを打たてたれきるを公孫瓈こうそんさいとぞよ討うきぬがく見みへりと公誰なとなからな甲かぶと盃わとも被はざる大將だいじょう一騎いっぎ鎧けいを提さげて馳の来くり文醜ぶんしゆと火ひを散まと戰たたかひけき。公孫瓈こうそんさいかうだの命めいとてとくと山さん上うへ逃のがれ文醜ぶんしゆをも退しのび。又また七八合ごんごう戰たたかひけけ。後あとより敵てきの大勢だいせいをもと見て。馬ばをうちと去はなる。公孫瓈こうそんさい

山さんをやりと我われを扶さくるものへ何なん人ひとと問たずす。其その人のだけ八尺濃眉ぼうび大眼だいかん闊面かくめん重頤ぢゆうい相あわせ眞堂まんどう威風凜いつふうりん常山じょうざん真定まんていの人ひとよ。趙雲とうおん字あざな子龍しのゆうと云いふ。公孫瓈こうそんさい問たずく。御辺ごへんひるれべふのふよ在あて。我われ危あやかをとどかう。趙雲とうおん曰いく。某そんへそを袁紹げんしょうう手下しもへ大將だいじょうり。袁紹げんしょう民みんを恤あき。漢かんを扶さくるを力ちから。おのれへ逃のがれし。ねがふ。仁德じんとくの主しゆは仕つかへ。ともよ天あまト畜く炭たんの苦くるをとへん。公孫瓈こうそんさいにまづらび本陣ほんぢんようへと武具ぶぐをそつ。次つぎ日ひ一色いろよ白しらき馬ばと二千足せんそくそくへ。磐河いわがの搞こう陣ぢんを張ぱ。又また歩立ほだてへ勢せいを中軍ちゆうぐん。公孫瓈こうそんさいが多く強よる勢せい五千余騎よきを備そなへ。左右うしゆの羽翼はよくとて。公孫瓈こうそんさいが多多く白しらき馬ばを持もる。先年せんねん羌胡きょうごの勢せいと戰たたかひ。常じょうよ白しら馬ばをそらん。先手せんしと一いきめ。白しら馬ば將軍じょうぐんを号くわして畏おそきあり。ある軍ぐんの吉よし



例とぞ。袁紹とを望むと。まづ顏良文醜二人を先手の兵將と。屈強の射手。千余騎と左右より備へ。又麴義といふ大将より。北囲毎双の射手。八百余騎をつけて中軍と。袁紹自ら後陣を備公孫瓚へしまく趙雲が心根をそりぎし。並びと後陣の備と大將嚴綱を先手と。帥の字を金線と繡る。紅色の旗を立たがいようと相侍。辰の刻より己の刻より。袁紹が大將麴義の前疊楯一面よつて立て。射手を其うちよじて出ざり。公孫瓚の方をうりと誰も是敵を破らんといふ。先手の大將嚴綱兵を引く討とう。これども麴義の聲まゝスリと音もせば。とじよらずとすらまえ。合囲の鉄砲をるぐる音とあい。八百の勢鎌とろく散て射歩。たまひに、討とううけとば嚴綱残りとす。

討ふる。ちくよ退ぞたるを。麴義八百余騎と追う。嚴綱と切てふぞとは是より公孫瓚が先陣。とどく破きなれ。左右より備なり。五千余騎。られをとさんともあゆ。顏良文醜千余騎と喰く。四角八方へうちじて。わくとも電光の激をよびてきしづ。五千余騎の勢十方。又討うちさへ。一あよめをまじひ。袁紹勝よ乗と橋の上を攻す。麴義真先よとんご。帥の字の旗をきりとふとしき。公孫瓚によ怒りと。自ら馬をまど。二三合戦ひげを。うるうどと引退け。麴義いふ。氣よ乗じ。後陣の備よとく。此陣より趙雲五百余騎と備。はるか味方引ひもあへ。や効ひ。敵くれどもこらへ。畏ひ。法術ひとつ兵を。ふよわほ。麴義が討とうと。趙雲自ら十余合戦。ひと鎗よ麴義を馬より突く落す。だらひ。大勢の中へうけの左より追

とびき右追まへ敵を討と殺を一ら。血へ混じて溝をる。
屍へ墨々と丘のど。公孫瓚はそぞり散て負て走りけふ。
後陣の軍は味方勝とりひをやと。急よ取てかけと。敵軍
は乱きて右往左往よもうとも。袁紹もづふ三百余騎を從
ぐ。射手五十人を左右よ立と。大将田豐と馬をもと。初め公孫瓚
が將を討き旗を折れまをと。公孫瓚はまとも無能をもえ
将より此軍の体を見よといひ笑く居たる。思もまうと趙雲が
五百余騎よ。勝よ乗て攻め。矢を放つと雨のとくもく。袁
紹膽をひかし。いせんと騒ぐ。公孫瓚又大勢を引く四方
を囲め。田豐かうひ怕を。袁紹よ向こやけ。敵四方とどり巻
て矢を放つと雨ありもあげ。あれある築地の陰よ。くらきを

避ん袁紹被ふ。盜を脱ぐ地よる。ひと。大夫の士。戦場よと
討死もひとと本意。何ぞ身をさけ。活をとを望まんと。呼へ
り。自ら真先よ馬を出せ。其手の兵よ。命をうしなひ。喚き叫
んと攻戦。浩もあよ。初め北の敵よ追ふ。頽良文醜。千余
騎の勢。わよ戦ひ。あよとやく。とくやく取て。喊をこゝとあ
ゆと菟よしへ。公孫瓚。又さんと乱き。趙雲と手よ。橋乃
辺まで退ぞたけ。袁紹が大軍勢よ乗て追う。河中よ
追落され。溺を死む。おねをそそぐ。袁紹自ら馬をこゝと。
一騎もあまよ。討と手よ呼ふ。又五里。まよ。遂石よ。山の間よ。一
鹿の軍馬うちよ。真先よと。もへ。左右の手よ。劍を提さげて。是
とあら劉玄德。其わよ。関羽。十二斤の青龍刀を提さげ。

張飛とうひ一丈八尺の蛇矛じやぼうをよみて。我平原われへいげんより来て公孫瓚こうそんさんを助たすく。
袁紹えんせう早く降こう泰たいせよと呼ようけき。袁紹えんせうふご段だんを騷さわぎ。これらや例れい
の劉玄德りゅうげんとくよ。とくやうよ退しりぞけとひかほどらをあき。大おほき乱まつきこ人馬じんば
がいよ踏殺ふみこころされ。甲こうをと。盜ぬすをふと。散さんくよど落おちゆたけ。公
孫瓚そんさん十分じゅうぶんよ打勝うちかち本陣ほんぢんようりと。玄德げんとくを持もう。趙雲とうくんが功ごうを物もの
語ごりしけを。玄德げんとくもんの内うちよ。趙雲とうくんが人表じんめい常じょう々ひつひつを散さんへ
趙雲とうくんも玄德げんとくを見みく。実まことよ主君しゅくんうるを思おもひ。おきよつけられ
よまとどるの立意立ちゑある

